

船舶事故調査報告書

平成22年4月8日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 根本 美奈

事故種類	火災
発生日時	平成21年7月6日 05時30分ごろ
発生場所	青森県八戸港北東方沖 鮫角灯台から真方位047° 6.7海里付近（概位北緯40° 37′ 東経141° 41′）
事故調査の経過	平成21年7月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	漁船 第一 ^{こうしん} 宏伸丸、9.7トン IT2-8006（漁船登録番号）、個人所有 21.15m×3.76m×1.43m、FRP ディーゼル機関、478kW、平成13年6月10日 船長 男性 46歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年4月17日 免許証交付日 平成21年7月14日 （平成24年4月16日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	<p>本船は、船長ほか甲板員1人が乗り組み、平成21年7月6日04時30分ごろ、青森県八戸漁港鮫地区を出港し、八戸港北東方沖の漁場に向けて航行した。</p> <p>船長は、05時30分ごろ、操舵室で操船中に主機の回転数が突然下がったことから主機を中立とし、左舷後方の機関室入口付近を見たところ、入口の縁から黒煙が出ていた。船長は、機関室内部を確認するため入口の引き戸を開けたが、吹き出る黒煙で内部を見ることができなかった。</p> <p>船長は操舵室に戻り、GPSで船位を確認して無線電話で僚船に救助を求め、甲板上で散水ホースを用いて消火活動を開始したが、本船は、後部甲板に設置された機関室の通風筒から吹き出した炎が周辺に積んでいた発泡スチロール製いか箱に燃え移って、延焼を続けた。</p> <p>船長は、再度GPSで確認した船位を僚船に伝えて救助を求め、煙に巻かれる状況となったので、05時40分ごろ、救命浮環に体を通して甲板員とともに船首から海中に飛び込んだ。</p> <p>約20分後、船長及び甲板員は来援した僚船に救助され、本船は10時05分ごろ沈没した。</p>

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2 海象：波高 0.3m</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、主機駆動発電機を使用していた。 事故当時、バッテリーを電源とする無線電話及びGPSプロッターの使用は可能であった。 乗組員2人は、火災のため、救命胴衣が備え付けられていた船内に入ることができず、発泡スチロール製いか箱が燃えて左舷後方の救命いかだ設置場所まで行くことができなかった。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 あり なし 本船は、八戸港北東方沖を漁場に向けて航行中、機関室内で出火したことにより火災が発生したものと考えられるが、出火原因を明らかにすることはできなかった。 本船は、船体がFRP製であったこと、及び発泡スチロール製いか箱に延焼したことから、短時間に燃え広がった可能性があると考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が八戸港北東方沖を漁場に向けて航行中、機関室内で出火したため、発生したものと考えられる。</p>	